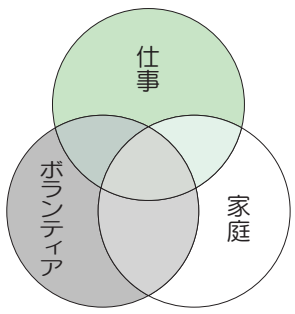
お母さんの可能性と自分再発見

マザーリング＆ファミリーナーシング研究所　所長　たけながかずこさん

「子育て中だから何もできない」とどうしたらよいか悩んでいるあなたから、「母、妻だけでなく、一人の女性としても輝きたい」に変化したいあなたへ。「笑顔で、元気に、ブラボーな子育てを楽しみましょう！」というワーキングマザーたちへのエールをいただきました。

ワークライフバランス（仕事と子育てのバランスを取りながら自分らしく生きること）を実現するためには、働き方の見直しや職場の取り組みなど、まだまだたくさんの課題を抱えています。大切なのは、どのような社会的背景や職場の環境でも、男女共同参画に向けて一歩を踏み出すことです。この講座では、仕事、家庭、ボランティアからなるマザーリングの「3つの輪の生き方」提案、女性も何か生きがいをみつけて、笑顔で、元気に、明るく子育てをしましょうというメッセージをいただきました。



「3つの輪の生き方」提案

昔、女性は結婚したら専業主婦になるのが当たり前でした。育児をしながら自分のために時間を使うことはいけないことだと女性はびくびくしている時代でした。その風潮の中で、「わが子が成長したときに役立つ時間なんだという納得の仕方をしてみませんか」と女性の認識を変える働きかけを行ってきました。

女性の人生は3つの輪、つまり「仕事」と「家庭や育児」「ボランティア（社会的な活動や勉強）」の輪のバランスを取って生きることが大事だと投げ掛けてきました。わたしたちの長い人生の中で、家族のさまざまなアクシデントを乗り越えるとき、耐えるとき、仕事が自分を支えてくれることもあります。「仕事をする自分」「社会的な活動や勉強をする自分」を持っておくべきです。たとえどんなに主婦業や子育てで忙しくても、わずかずつでもよいから、3つの輪を維持し続けていきましょう。3つの輪の代償や重なる部分は人それぞれの価値観、何を重要とするかによって違います。自分なりのベストなバランスを見出しましょう。

受講者アンケートより

・出産を機に専業主婦になり自己表現できる場を失い、喪失感でもやもやしていました。そのイライラで夫とのコミュニケーションもぎくしゃくしていたので、今日はたけながが先生のお話が聞けて涙が出そうになりました。子育てしている人にもっと聞いてもらいたかったです。

・わたし自身育児で忙しいことや主人に迷惑がかかるから、などで今後のわたしの人生での選択に思い悩む時期を過ごしていました。しかし、良いコミュニケーションにより主人にも理解してもらえるよう努力し、自己表現するために日々しっかりとした考えを持ち努力していきたいと思いました。

講師プロフィール

マザーリング＆ファミリーナーシング研究所
所長　たけながかずこさん

仕事を続ける多くのワーキングマザーたちをはじめ、「育児・介護は女性のもの」という社会風潮の中での閉塞感を感じ、悩む現代の女性たちから熱い支持を得ている。

著書に「キャリアアップ志願」「介護の話」など

子どもたちの今　家庭と地域

～大切なコミュニケーション～

教育アドバイザー　西野　学さん

長崎県生まれの被爆者二世。このことを理由にいじめられた経験や、反対に人をいじめた経験もあり、そのことが二十二年間に渡る公立中学校での教員時代に子どもたちの気持ちを知る上で役に立ったと語る。子どもたちの今を知り、きちんと育てることで、次代の男女共同参画を担う事ができるという思いを伝え続けている。

今の子どもの特徴は「忍耐力が無い」、「気力が無い」、「痛みを知らない」、「叱られていることも分からない」そうです。

最初の「忍耐力が無い」、「気力が無い」は一見、今の子どもたちは何事にも忍耐力が無かったり、気力が無いように見えますが、実は興味の有る、無いがはっきりしているだけのようです。興味の有るものには何処までも努力し、無いものには一切しない、もちろん痛みの伴うことやつらいこともしないようです。

「痛みを知らない」、「叱られていることも分からない」は痛みを知る前に親が助けてしまったり、善悪の意味を大人が教えられていなかったりする現状があるとのことでした。そして、教員の立場からしても、いろいろな教育をしてあげたいけれど、今の子どもたちは尊敬することも知らず、教員に対しても、自分たちの税金が給与になっていることを知っているため立場が逆転しているそうで、これを何とかしないと教えることもできないという現状があるとのお話しでした。

どうしてこんな子どもたちが出来たのか？　世間では「子育て力の低下」だと言われていますが、西野先生はそうは思わないそうです。ではなぜか。社会の変容、それは携帯電話やコンビニエンスストアの普及、学校の指導不足や自治会への不加入、そして、自分を大切にする自己愛や互いを認め合う相互愛の低下や経済の低下が原因とおっしゃっていました。

それを改善していくためには日常の出来事の共有や会話をきちんとしたり、子どもたちを認めながら褒めてあげたり、やる気を損なうようなことを言わないようにしたりと、きちんと子どもたちを見てあげることが重要とのことでした。ただし、理解しすぎるのも危険で、時には未熟であることも教えなければならないようです。

そして、今の日本には子どもたちの気持ちを発散したり楽しめる公共の場所が少なく、子どもたちの居場所がないため正常な子どもの気持ちが生育しなかったりする現状もあるようで、ほかの人たちや子ども達とのコミュニケーション不足のために、色々なことに興味を示す余裕がなく、これを打開できれば男女共同参画などのことにも耳を貸そうという気持ちになっていくのではないかとの事でした。

「今、日本の中で子どもたちに対して、先に取り組まなければいけないことは男女の差別よりも力関係が強い弱い、背が大きい小さいなど人としての差別を排除することだとわたしは思います。これを治すには心の教育がもっとも必要と考えます。」と西野先生は最後におっしゃっていました。

講師プロフィール

教育アドバイザー
西野　学さん

三十二年間の公立中学校教師生活、くらし安全指導員、綾瀬市教育委員会教育研究所適応指導教室等の豊富な勤務経験のほか、(財)日本オリンピック委員会強化スタッフなどの経験を生かした幅広い講話が人気を呼び、現在各地で講演活動を勢力的に行っている。

ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス」って聞いたことある？
「ワーク・ライフ・バランス」とは、
日本語で言うと
「仕事と生活の調和」のこと。
「ライフ」の中で
「ワーク」がほとんど占めていませんか？
毎日長ーく働いているパパ
もっとこどもと一緒に過ごしたい！
トシをとり、病気がちな親…
そろそろ介護が心配だ。
農業は自然が相手。
時間も曜日も関係ないので大変です。
自営業は時間が自由!?
逆に仕事と生活の境目がないかも。
「ワーク・ライフ・バランス」って
あなたがたいせつにしたい「いろいろ」が
「ライフ」の中にちゃんとある、
そんなうれしい状態のこと。
あなたのライフ、ハーモニーがとれている？
「周り」と響きあっている？
ハーモニーは「コミュニケーション」からはじまる。
「チームの輪」を広げていこう！
もちろん、家族も、ひとつのチーム。
今こそ、みんなでカエル！カンガエル！
育児の分担を「カエル」
未来の自分を「カンガエル」
働く時間の使い方を「フリカエル」
自分自身に「カエル」

あくしゅフォーラム

～ざまの男女共同参画社会の実現をめざして～

とき　3月14日（日）
午後1時30分～4時
（午後1時開場）

ところ　ハーモニーホール座間
（市民文化会館）

内容　家族カウンセラー宮本まき子さんによる「シャキッとしなさい！～今どきの女（ひと）と男（ひと）・親（ひと）と子（ひと）～」と題した講演。

無料で保育あります！
市民の皆さん、ご参加を！
TEL：046-252-8483